履　歴　書

氏名（ふりがな） 熊本　太郎（くまもと　たろう）

生年月日 1980年１月11日

自宅住所 〒XXX-XXXX　○○県○○市○○町1-23-4-567

 TEL/FAX：0XX-123-4567

勤務先・現職 ○○大学大学院○○研究科・准教授

　 ○○大学大学院○○研究科　○○学部門　○○学分野

 〒8XX-0XXX　○○県○○市○○町8-9

 TEL：0XX-321-4567　　FAX：0XX-321-1234

 E-mail　taro@xyz.abc.ne.jp

学　　歴 1998年3月31日 ○○高等学校　卒業

 1998年4月1日 ○○大学医学部　入学

 2004年3月25日 同　卒業

 2006年4月1日 ○○大学大学院○○研究科　入学

 （○○学専攻）

 2010年3月25日 同　修了（博士（医学））

職　　歴 2004年4月1日 ○○病院・研修医

 2010年4月１日 米国NIH客員研究員（Dr. ○○研究室）

 2015年7月16日 ○○大学○○研究所・准教授

 2020年4月1日 ○○大学大学院○○研究科・准教授

 現在に至る

学　　位 博士（医学）（2010年３月　○○大学）

免許および資格 注：専門医・指導医の有無について明記すること。

 2004年5月10日 医師免許（登録第11111号）

 2010年10月１日 日本○○学会認定　専門医 111号

学会活動等 日本○○学会（８年間、2012年より評議員）

 日本△△学会（６年間、2014年より理事）

 日本□□学会（４年間）

賞　　罰 2019年12月3日 第10回日本xx学会賞受賞

業績目録

注：著者名は全員を記し、応募者にはアンダーライン、論文のcorresponding authorには＊を付すこと。また投稿中論文は記載しないこと。印刷中の論文については正式な採択通知書のコピーを同封できる場合に限って記載が認められる。業績目録作成にあたって以下の記入例を参考にすること。記載順は、直近の年代の論文から過去に遡って記載すること。英文原著論文・総説・症例報告については掲載誌の最新のimpact factor (IF)及び当該論文の被引用回数（citation; Scopusによる最新データ）を記すこと。

Ⅰ．英文原著論文

1. Oe Y., Honjo E., Kuhonji T, Kumamoto T., Tsubame S., Mizuo T., Sakura H., Shirakawa K. & Kurokami T.\*

 PKC is activated by the cell-matrix interaction via CD44.

 **J. Cell Biol**., (2024) in press. [IF, 7.4; citation, 0]

 2. Honjo J.\* & Kumamoto T.

 Progression of tumor cells by H-Ras oncogenic signaling.

 **Proc. Natl. Acad. Sci. USA** 108, 9-10 (2023). [IF, 9.4; citation, 10]

 3. Kumamoto T.,\* Honjo J., Oe Y., Kuhonji T. & Kurokami T.

 Signal transduction in the cell differentiation.

 **Nature** 483, 456-789 (2022). [IF, 50.5; citation, 300]

Ⅱ. 英文原著論文の数、IFの総和および引用回数のまとめ

注：記入例に従い、総論文数、1st author、2nd author、last author、corresponding authorおよび、それ以外の共著者の論文数を記載すること。印刷中の論文については、Ⅰに記載したものに限って記載が認められる。1st authorでかつcorresponding authorである場合やlast authorでcorresponding authorである場合などは、corresponding authorとして扱い、重複して記載をしてはならない。IFの合計点、\*selected IFの合計点および引用回数についても記載すること。また最近５年間（2020～最新）（in pressも含む）の掲載論文についても（ ）内に、最近10年間（2015～最新）の掲載論文について【 】内に記載すること。

ただし、上記の期間内に産前産後の休暇又は育児若しくは介護（以下「育児等」という。）のための休業を取得した期間及び育児等のための短時間勤務を行った期間がある場合は、当該期間に相当する期間を遡って加えた期間の掲載論文について（　）内及び【】内に記載すること。IV、VI及びXVにおいても同様とする。

\*Selected IF:申請者が 1st author, 2nd author, last authorもしくはcorresponding authorである論文のIF。

記入例

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 原著論文総数 |  |  |  |  |
| 100 (35)【48】 |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
| 1st author論文数 | 2nd author論文数 | Last author論文数 | Corresponding author論文数 | それ以外の論文数 |
| 20 (7)【10】 | 20 (10)【15】 | 20 (5)【6】 | 10 (5)【7】 | 30 (8)【10】 |
|  |  |  |  |  |
| IFの合計点 | Selected IFの合計点 | 引用回数の総合計 |  |  |
| 350 (200)【220】 | 212 (167)【200】 | 2562 |  |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 産前・産後休暇 | 育児・介護のための休業 | 育児・介護のための短時間勤務 |
| 令和○年○○月○○日　～令和○年○○月○○日（××か月××日） | 令和○年○○月○○日　～令和○年○○月○○日（××か月××日） | 令和○年○○月○○日　～令和○年○○月○○日（換算日数※：××日） |
| 上記期間の合計　　年　　か月　　日 |

※換算日数は、育児・介護等のために勤務しなかった時間を累積し、７時間４５分で除して得た値（この値に１日未満の端数を生じたときは１日に切り上げる。）とすること。

Ⅲ．英文総説

1. Honjo J., Kumamoto T.\* & Kurokami T.

Regulation of cellular proteins via ubiquitin-proteasome system.

 **N. Engl. J. Med**. 345, 9-10 (2023). [IF, 96.2; citation, 500]

2.　Kumamoto T.\*

 Stress response in neuronal cells.

 **Nat. Rev. Mol. Cell Biol**. 1, 23-45 (2021). [IF, 81.3; citation, 600]

Ⅳ．英文総説論文の数、IFの総和および引用回数のまとめ

注：記入例に従い、総論文数、1st author、2nd author、last author、corresponding authorの論文数を記載すること。印刷中の論文については、Ⅲに記載したものに限って記載が認められる。1st authorでかつcorresponding authorである場合やlast authorでcorresponding authorである場合などは、corresponding authorとして扱い、重複して記載をしてはならない。申請者が1st author、2ndauthor、last author、corresponding author である英文総説のIFの合計点および引用回数についても記載すること。また最近５年間(2020～最新)（in pressも含む）の掲載論文についても（ ）内に、最近10年間（2015～最新）の掲載論文について【 】内に記載すること。

記入例

|  |
| --- |
| 総説論文総数 |
| 36 (8)【24】 |
|  |  |  |  |  |
| 1st author論文数 | 2nd author論文数 | Last author論文数 | Corresponding author論文数 | それ以外の論文数 |
| 17 (4) 【8】 | 8 (1) 【5】 | 3 (1) 【3】 | 3 (1) 【3】 | 5 (1) 【5】 |
|  |  |  |  |  |
| IFの合計点 | Selected IFの合計点 | 引用回数の総合計 |
| 70 (55) 【60】 | 70(55)【60】 | 100 |

Ⅴ．英文症例報告

 1. Kumamoto T.,\* Honjo J., Oe Y., Kuhonji T. & Kurokami T.

 A case of type A insulin resistance with insulin receptor gene mutation.

 **N. Engl. J. Med**. 340, 20-22 (2023). [IF, 96.2; citation, 50]

Ⅵ．英文症例報告のIFの総和

注：記入例に従い、申請者が1st author、2ndauthor、last author、corresponding author である英文症例報告のIFの合計点についても記載すること。また最近５年間(2020～2024年)（in pressも含む）の掲載論文についても（ ）内に、最近10年間（2015～2024年）の掲載論文について【 】内に記載すること。

記入例

|  |
| --- |
| IFの合計点 |
| 0 (0) 【0】 |

Ⅶ．邦文原著論文

　 1. 熊本太郎. 組み換えタンパク質の発現効率の制御に関する研究.

 生化学 85, 124-132 (2020).

Ⅷ．邦文症例報告

　 1. 熊本太郎, 本荘次郎

糖尿病ケトアシドーシス発症時の症例.

 糖尿病56, 80-85 (2019).

Ⅸ．邦文総説

（注：全国規模の学会誌などに、申請者の研究成果を中心に当該分野の現況などについてレビュー

した、特に重要なもの等に限定して記載のこと。）

　 1. 熊本太郎. 組み換えタンパク質の研究についての展望.

 生化学 84, 985-993 (2018).

Ⅹ. 著書

 1 Kumamoto T., Kuhonji T, Tsubame S., Mizuo T., Sakura H. & Kurokami T.

 Alzheimer's disease and stress gene expression.

 *In* **Alzheimer's Disease, Annals of Neuroscience**, Vol. 123

 (eds., Honjo J., Oshiro G. & Shirakawa K.), Kumamoto Academy of Medical Sciences,

 Kumamoto, p. 456-789 (2020).

2. 熊本太郎

 組み換えタンパク質

新医科学実験講座23 (医科学会 本荘次郎 編), 化学同人 (熊本), p. 456-789 (2019)

ⅩⅠ．招待講演（シンポジウムを含む）（国際学会）

 1. Kumamoto T.

 Regulation of autophagy in human cells.

 The 10th International Conference on Human (2020)

ⅩⅡ.　特別講演・宿題報告・教育講演・指名講演など（国内学会）

（注：全国規模の学会に限定し、企業主催のセミナー・講演会などを除いたものを記載のこと。）

 1. 熊本太郎, 本荘次郎

 フォスファターゼと活性化機構

 第30回 日本医学会総会シンポジウム (2019)

ⅩⅢ.　シンポジウム発表など（国内学会）

（注：全国規模の学会に限定し、企業主催のセミナー・講演会などを除いたものを記載のこと。）

 1. 熊本太郎, 本荘次郎

 フォスファターゼと活性化機構

 第30回 日本医学会総会シンポジウム (2019)

ⅩⅣ．競争的研究資金の獲得状況

（注：過去に獲得した競争的研究資金について、研究代表者・分担者分をそれぞれ文部科学省科学

研究費補助金、その他の省庁研究補助金、財団等補助金別に配分資金（直接経費）を記載のこと。

なお、研究分担者分については分担者への実際の配分額を記すこと。また、間接経費の交付が

ある場合には、その配分額を明記すること。）

 研究代表者分

 文部科学省科学研究費

 1. 令和3 〜令和5年度　基盤研究(A)　30,000千円（間接経費9,000千円）

 神経変性疾患と遺伝子治療に関する研究

2. 平成30〜令和2年度　基盤研究(B)　15,000千円（間接経費4,500千円）

 タンパク質リン酸化と活性化機構

 その他の省庁研究補助金

 1. 平成29〜30年度　厚生労働省科学研究費

 がん克服戦略研究事業　50,000千円

 細胞のイメージングと分子標的治療

 財団等補助金

 1. 平成29年度　特定研究助成金　2,000千円

 細胞ストレスと薬剤耐性化に関する研究

 研究分担者分

 文部科学省科学研究費

 1. 令和元〜令和3年度　基盤研究(B)　1,000千円（間接経費300千円）

 幹細胞の分子機構に関する研究（研究代表者　黒髪太郎）

 2. 平成30〜令和2年度　基盤研究(B)　1,000千円（間接経費300千円）

 低酸素応答に関する研究（研究代表者　大江良子）

 その他の省庁研究補助金

 1. 平成29〜令和3年度　厚生労働省科学研究費

 がん克服戦略研究事業　5,000千円

 多剤耐性がん細胞に関する研究（研究代表者　黒髪太郎）

 財団等補助金

 1. 平成30年度　日本糖尿病財団研究助成金　500千円

 細胞ストレスに関する研究（研究代表者　黒髪太郎）

ⅩⅤ．競争的研究資金の獲得状況のまとめ

注：記入例に従い、総獲得額、研究代表者としての直接経費獲得額、研究分担者としての直接経費獲得額、最近５年間（令和2(2020)年度～令和6(2024)年度、内定を含む）の直接経費獲得額、研究代表者としての直接経費獲得額、研究分担者としての直接経費獲得額を記載すること。間接経費の交付がある場合には、（ ）内にその配分額を記載すること。

記入例

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 直接経費の総額（間接経費） | 研究代表者としての直接経費獲得額（間接経費） | 研究分担者としての直接経費獲得額（間接経費） |
| 200,000千円（40,500千円） | 150,000千円（40,000千円） | 50,000千円（500千円） |
|  |  |  |
| 令和2～令和6年度の直接経費の合計（間接経費） | 令和2～令和6年度の研究代表者としての直接経費獲得額（間接経費） | 令和2～令和6年度の研究分担者としての直接経費獲得額（間接経費） |
| 100,000千円（25,300千円） | 80,000千円（25,000千円） | 20,000千円（300千円） |

主要研究論文

（原則として原著論文が望ましいが、総説を含めることもできる。総説を記載した場合は、明記

すること。合計２０編以内に限定して記載すること。）

○最近５カ年(2020～2024年)（in pressを含む）の業績

 1. Oe Y., Honjo E., Kuhonji T, Kumamoto T., Tsubame S., Mizuo T., Sakura H. Shirakawa K. & Kurokami T.\*

 PKC is activated by the cell-matrix interaction via CD44.

 **J. Cell Biol**., (2024) in press. [IF, 7.4; citation, 0]

 2. Honjo J.\* & Kumamoto T.

 Progression of tumor cells by H-Ras oncogenic signaling.

 **Proc. Natl. Acad. Sci. USA** 108, 9-10 (2023). [IF, 9.4; citation, 10]

3. Kumamoto T.,\* Honjo E., Oe Y., Kuhonji T. & Kurokami T.

 Signal transduction in the cell differentiation.

 **Nature** 483, 456-789 (2022). [IF, 50.5; citation, 300]

 4. Kumamoto T.\*

 Stress response in neuronal cells.

 **N. Engl. J. Med**. 345, 9-10 (2021). [IF, 96.2; citation, 500]

 英文総説

注：著者名は全員を記し、応募者にはアンダーラインを引き、論文のcorresponding authorには＊を付すこと。投稿中論文は記載しないこと。印刷中の論文については、正式な採択通知書のコピーを同封できる場合に限って記載が認められる。記載順は、直近の年代の論文から過去に遡って記載すること。また、掲載誌の最新のimpact factor (IF)、及び当該論文の引用回数（citation; Scopusによる最新データ）を記すこと。

業　績　の　概　要

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　熊本　太郎

現在までの業績をＡ４に１枚、1200字以内で記載すること。

教育に対する抱負

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　熊本　太郎

1.今回応募する職種について以下のいずれかに○を付けてください。

1. 教授希望　　　　②准教授希望　　　　③どちらでも可

2.教育に関して、現在お持ちの抱負を1200字以内で記載ください。

3.熊本大学では御遺体を用いたサージカルトレーニングの導入を計画しており、解剖学担当教員として、その運営にも貢献していただきたいと思います。つきましては、以下の質問にご回答ください。回答スペースは適宜拡大し、複数ページにわたっても構いません。

1. サージカルトレーニングに関して、解剖学担当教員の関与の仕方について

②サージカルトレーニングの運営に関して、大学・大学病院の関与について

研究に対する抱負

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　熊本　太郎

研究に関して、現在お持ちの抱負をＡ４に１枚、1200字以内で記載ください。

教育の実績等

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　熊本　太郎

下記1～3の質問にご回答ください。回答スペースは適宜拡大し、複数ページにわたっても構いません。現在解剖学教室に所属していない方は、1～2の回答を省略し、3の質問に対して、ご自身がこれまでに関わってきた領域における教育の実績を簡潔に記載してください。

1.これまでの解剖学教育（肉眼解剖学、骨学、神経解剖学、発生学など）の実績（担当時間数、内容等）を具体的に記載し、これに係る最近３年間のシラバスを添付してください。

2.熊本大学では、2年生の4月から7月の火木金曜日の午後2コマ（1コマが90分）を使って合計45日間の解剖実習を行っています。実習内容を簡潔にまとめると、頭部：13回、頸部：7回、胸部：11回、腹部：14回、骨盤部：7回、背部と臀部：5回、上肢：7回、下肢：7回、脊髄：2回をいくつかの項目を同時並行で進めながらこの実習期間に行っています。

1. 貴学の解剖実習の総コマ数はいくつでしょうか？

②貴学の解剖実習の1コマの実習時間は何分でしょうか？

③総コマ数のうち、実際に担当しているコマ数はいくつでしょうか？

④全コマ数を担当していない場合、担当している項目とそのコマ数を具体的に回答してください。

3.解剖学以外の教育歴について